

2016 年度 公益社団法人 日本雪氷学会 北海道支部 総会

日時：平成 28 年 5 月 13 日（金）

場所：北海道大学 学術交流会館

（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）

議 事 次 第

1. 開 会

2. 支部長挨拶

3. 議 事

（1）2015 年度事業報告 資料 1

（2）2015 年度収支決算報告 資料 2

（3）2016 年度事業計画（案） 資料 3

（4）2016 年度収支予算（案） 資料 4

（5）2016 年度支部役員（案） 資料 5

（6）その他

①北海道の雪氷の英語表記について 資料 6

②ニューズレターの発行について 資料 7

4. 閉 会

公益社団法人日本雪氷学会北海道支部 2015 年度事業報告

1. 支部総会の開催

開催日時：2015 年 5 月 15 日（金）10:00-10:30

開催場所：北海道大学 学術交流会館 小講堂

主要議題：（1）2014 年度事業報告・収支決算
（2）2015 年度事業計画（案）・収支予算（案）
（3）2015 年度支部役員（案）について

出席者：35 名

2. 理事会の開催

第 1 回理事会

開催日時：2015 年 5 月 15 日（金）10:30-11:30

開催場所：北海道大学 学術交流会館 小講堂

主要議題：（1）役割分担の確認
（2）評議員・顧問の選出

第 2 回理事会

開催日時：2015 年 8 月 18 日（金）13:00-15:30

開催場所：北海道開発技術センター（札幌市）

主要議題：（1）理事役割分担の確認
（2）支部予算について
（3）2015 年度研究発表会の総括
（4）「北海道の雪氷」の編集状況
（5）雪氷賞の選考委員会の立ち上げについて
（6）地域講演会の開催報告
（7）雪氷教育事業（サイエンスパークほか）
（8）支部 HP の更新・改修について
（9）その他
・ 次回の理事会について

第 3 回理事会

開催日時：2015 年 11 月 25 日（水）10:00-12:00

開催場所：北海道開発技術センター（札幌市）

主要議題：（1）機関誌（北海道の雪氷 34 号）発行の報告
（2）雪氷賞の選考について
（3）次年度支部予算について
（4）次年度の地域講演会について
（5）その他
・ 「雪の観察シート」の HP 公表について
・ 支部内規について
・ 次回の理事会について

第 4 回理事会

開催日時：2016 年 4 月 13 日（水）15:00-17:00

開催場所：北海道開発技術センター（札幌市）

主要議題：（1）2016 年度役員について
（2）研究発表会（5/13-14）について

資料 1

- (3) 2016 年度総会（5/13）資料について
- (4) 2016 年度地域講演会について
- (5) 支部機関誌「北海道の雪氷」の英語表記について
- (6) ニュースレターのあり方について
- (7) 事業（活動）報告の追加について
- (8) 国際基準雪崩レスキュー講習会の方向性について
- (9) 次回の理事会について

3. 顧問・評議会の開催

開催日時：2015 年 5 月 15 日（金）11:30～12:00

開催会場：北海道大学 学術交流会館 小講堂

主要議題：雪氷学会の組織体制変更と支部運営の状況

4. 研究発表会の開催

開催日時：2015 年 5 月 15 日（金）13:00～17:00

2015 年 5 月 16 日（土）9:30～17:00

開催会場：北海道大学 学術交流会館 小講堂

口頭発表：34 件

参加者：121 名

5. 北海道雪氷賞の表彰

○2014 年度北海道雪氷賞の表彰

以下の通り、2014 年度北海道雪氷賞の表彰式を実施。

【北の風花賞】

受賞者：斉藤 潤氏（北海道大学低温科学研究所）

論文名：グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化

受賞者：佐藤雄輝氏（北海道科学大学）

論文名：構造部材の着雪性状に関する実験的研究－雪粒子の衝突率・着雪率について－

【北の六華賞】

受賞者：松岡直基氏（日本気象協会）

論文名：「北海道における 2013 年と 2014 年の吹雪災害の比較」

【北の蛍雪賞】※該当者なし

○2015 年度北海道雪氷賞の選考

以下の通り、2015 年度北海道雪氷賞を選考。

【北の風花賞】

受賞者：森下裕士氏（北見工業大学大学院）

論文名：「北極海航路の氷況と可航性に関する研究」グリーンランド北西部における氷帽の表面高度変化

【北の六華賞】

受賞者：八久保晶弘氏（北見工業大学）

論文名：「野外におけるガス吸着式積雪 SSA 測定装置の運用」

【北の蛍雪賞】

受賞者： 斉藤新一郎（北海道開発技術センター）

「大雪や寒さと樹木被害の関係についての一連の研究」

6. 機関誌「北海道の雪氷」34 号の刊行

発行日：2015 年 9 月

収録論文数：34 件

資料 1

7. 社会貢献事業

○雪氷災害調査チームの活動

・第 7 回研修会

開催日時：2015 年 4 月 9 日（木）～4 月 10 日（金）

開催場所：北海道上川郡東川町旭岳温泉

参加人数：21 名

研修内容：ミーティング、調査報告、実技研修（雪崩現場での安全確保・積雪調査）

・第 23 回講演会「雪崩から身を守るために」の開催

開催日時：2015 年 11 月 14 日（土）8:30～17:00

参加者：250 名

開催場所：北海道大学クラーク会館講堂（札幌市）

主催：北海道大学体育会山スキー部，北海道大学山とスキーの会，雪崩事故防止研究会・（公社）日本雪氷学会北海道支部

・2015/2016 プレシーズンミーティングの開催

開催日時：2015 年 11 月 14 日（土）17:30～18:30

開催場所：北海道大学クラーク会館講堂控室

参加人数：27 人

主要議題：(1) 2014/15 シーズン調査チーム活動報告・会計報告
(2) 2015/16 シーズンの調査チーム体制と記者会見日程
(3) 寄付企業
(4) 第 8 回研修会の日程の決定
(5) 新メンバー推薦&審議
(6) 「雪崩事故調査記録カード」について提案

・2015 年 12 月 30 日に旭岳裏盤の沢で発生した雪崩の調査

調査日時：2015 年 12 月 31 日（木）

調査場所：旭岳裏盤の沢

出勤人数：ガイド部門 4 名，研究部門 2 名，協力者 1 名

調査内容：破断面および堆積区での積雪調査，雪崩規模の調査
後日，通報者や捜索者への聞き取り・資料収集を行った。

報告：雪氷災害調査チーム HP に掲載。

道支部研究発表会および機関誌「北海道の雪氷」で発表予定。

・2016 年 3 月 26 日に羊蹄山で発生した雪崩の調査

調査日時：2016 年 3 月 27（日）

調査場所：羊蹄山京極コース

出勤人数：ガイド部門 1 名，研究部門 3 名

調査内容：破断面の目視観察，1430m での積雪調査，雪崩規模の調査

報告：今後，雪氷災害調査チーム HP に掲載予定。

道支部研究発表会および機関誌「北海道の雪氷」で発表予定。

○雪氷教育等

・「2015 サイエンスパーク」への参加

開催日時：2015 年 8 月 5 日（水）

9:30～16:00（①12:50～14:20 ②14:30～16:00）

開催場所：北海道庁赤れんが庁舎 2 階

主催：北海道，（地独）北海道立総合研究機構

出展：『雪の結晶を作ろう（雪氷楽会）』

内容：平松式人工雪発生装置による雪結晶観察，雪の結晶型アイロンビーズ作成

参加者：小学 1 年生～6 年生

① 24 名 ②23 名（保護者含めた参加者 ①49 名 ②43 名 合計 92 名）

資料 1

・「夏休み！カーリングと氷のセミナー」への協力

開催日時：2015 年 8 月 10 日（月）、8 月 11 日（火）17：00～18：00

開催場所：どうぎんカーリングスタジアム

主 催：札幌市

主 管：（一社）札幌カーリング協会

協 力：日本雪氷学会北海道支部

内 容：アイスシート（カーリング競技場）を利用した氷の実験・体験プログラム

参 加 者：小学 1 年生～3 年生 8 名

小学 4 年生～6 年生 3 名

・「カーリング体験×雪氷教室」への協力

開催日時：2016 年 2 月 13 日（土）10：00～12：00

開催場所：どうぎんカーリングスタジアム及び月寒屋外競技場（アーチェリー場）

主 催：札幌市

主 管：（一社）札幌カーリング協会

協 力：日本雪氷学会北海道支部

内 容：アイスシート（カーリング競技場）を利用した氷の実験・体験プログラム、
雪の観察会

参 加 者：小学 1 年生～6 年生 16 名

・「しかりべつ湖たんけん隊 2016 雪と氷の世界まんきつツアー」への講師派遣

開催日時：2016 年 3 月 21 日（月・祝）

開催場所：然別湖

共 催：鹿追町こども宿泊体験交流協議会、とかち鹿追ジオパーク推進協議会、
しかりべつ湖コタン実行委員会

内 容：雪氷実験の実施（過冷却水の実験、凍るシャボン玉の観察）

参 加 者：小学 3 年生以上 26 名

8. ニューズレターの刊行

No. 51：2015 年度 北海道支部研究発表会のお知らせ（最終）/ 2015 年度 北海道支部総
会・理事会（第 1 回）・評議員会のお知らせ（最終）/ 2014 年度 北海道雪氷賞の
受賞者・受賞論文のお知らせ
＜2015 年 5 月 1 日発行＞

No. 52：2016 年度 北海道支部研究発表会のお知らせ/ 2016 年度 北海道支部総会・理事
会（第 1 回）・評議員会のお知らせ/ 2015 年度 北海道雪氷賞の選考について
＜2016 年 4 月 23 日発行＞

9. 支部ホームページの更新

- ・各種イベント（研究発表、地域講演会など）の告知
- ・「北海道の雪氷」公開
- ・「雪観察シート」の掲載

10. 北海道支部地域講演会

講演会名：「雪氷の世界」

開催日時：2015 年 7 月 18 日（土）14:00～16:00

開催場所：北海道立オホーツク流水科学センター多目的講義室

主 催：公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部

共 催：北海道立オホーツク流水科学センター

後 援：紋別市

資料 1

開催内容：

(1) 講演会

講演内容：「雪害を考慮した建築設計手法について」

講師：苫米地 司氏（北海道科学大学長）

講演内容：「流水の妖精 クリオネの生態」

講師：桑原 尚司氏（北海道立オホーツク流水科学センター学芸員）

講演内容：「南極での一年 ―知られざるマイナス 70℃の世界―」

講師：亀田 貴雄（北見工業大学教授）

開催場所：北海道立オホーツク流水科学センター

参加者：50 名

(2) 紋別わくわく科学教室

開催内容：「雪の結晶を作ろう！（雪氷楽会）」

平松式雪結晶の観察、アイロンビーズで雪結晶制作

開催日時：2015 年 7 月 19 日（日）10:00～

開催場所：北海道立オホーツク流水科学センター

参加者：48 名（小学校 1～6 年生）

11. 雪氷関連行事の共催・後援・監修（研究成果普及事業）

【共催】

- ・国際雪・雪崩シンポジウム in ニセコ 「雪崩発生危険度を予測する」

開催時期：2015 年 12 月 9 日（水）から 12 日（土）

開催場所：ニセコ町民センター 虻田郡ニセコ町字富士見 95

主催：名古屋大学大学院環境学研究科 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター

- ・企画展「雪の研究者・中谷宇吉郎」

開催時期：2015 年 12 月 19 日（土）から 2016 年 4 月 10 日（日）まで

午前 9 時 30 分から午後 5 時まで

開催場所：小樽市総合博物館本館・企画展示室

主催：小樽市総合博物館

- ・企画展「雪の研究者・中谷宇吉郎」関連行事

テーマ：全天周映像番組「Snowflake～雪は天からの手紙～」

開催時期：2016 年 2 月 5 日（金）から 14 日（日）まで

開催場所：小樽市総合博物館本館・ドームシアター

主催：小樽市総合博物館

- ・企画展「雪の研究者・中谷宇吉郎」関連講演会

テーマ：身近な冬の華 雪の結晶

開催時期：2016 年 2 月 20 日（土）午前 10 時から正午まで

開催場所：小樽市総合博物館本館

主催：小樽市総合博物館

【後援】

- ・平成 27 年度第 5 回 紋別わくわく科学教室

開催時期：2015 年 7 月 19 日（日）10:00-15:00

開催場所：北海道立オホーツク流水科学センター

主催：北海道立オホーツク流水科学センター

- ・第 27 回技術者交流フォーラム

講演テーマ：激甚化する雪氷災害の現状と課題

開催時期：2015 年 10 月 29 日（木）13:30～17:00

資料 1

開催場所：北海道北見市（ホテル黒部）

主 催：土木研究所寒地土木研究所

- ・ 第 19 回 科学探検ひろば 2016

開催時期：2016 年 1 月 9 日（土），10 日（日）

開催場所：旭川市科学館（サイパル）

主 催：サイエンスボランティア旭川，旭川市教育委員会

資料 2

公益社団法人日本雪氷学会 北海道支部 2015 年度会計報告

雪氷災害調査				2015 年度予算	2015 年度決算
収入				1,147,206	1,640,656
資産勘定 (雪氷災害調査基金) からの繰入				547,206	940,656
寄附金				600,000	700,000
前期繰越金				0	0
支出				1,147,206	1,320,656
		事業費 計			
1 調査・研究	調査	雪氷災害調査		1,147,206	1,320,656
		旅費交通費			766,290
		謝金			333,544
		通信運搬費			950
		消耗品費			181,402
		保険料			7,700
		印刷費			25,022
		会場費			5,100
		振込手数料			648
収支差額				0	320,000

資料 2

公益社団法人日本雪氷学会 北海道支部 2015 年度会計報告

雪氷災害調査以外

2015 年度予算 2015 年度決算

収入合計				150,010	137,198
当期収入				150,010	137,198
事業収入 雑収入	出版収入			150,000	137,184
	受取利息			10	14
	寄付金			0	0
支出合計				320,800	328,326
事業費				287,800	303,234
1 調査・研究 2 研究会研修会	調査	雪氷災害調査			-
	研究発表会	北海道支部研究発表会・支部表彰		102,300	80,672
	研修会等	北海道支部講演会		0	0
	普及・啓発	雪氷教育ほか		26,000	25,591
	褒賞	北海道雪氷賞		43,500	70,621
	3 出版事業	支部等機関誌	北海道支部機関誌	116,000	126,350
		その他出版物		0	0
管理費				33,000	25,092
	事務局費			11,500	10,920
	会場費			20,500	13,200
	支払手数料			500	972
	役員選挙費			0	0
	雑費			0	0
収支差額				-170,790	-191,128

資料 2

2015 年度棚卸資産

棚卸資産			2014 年度末 (15/3/31)		2015 年度末 (16/3/31)	
担当	機関誌名	原価(円)	在庫数	資産額(円)	在庫数	資産額(円)
	北海道の雪氷 No.33(モノクロ)	1,900	3	5,700	3	5,700
	北海道の雪氷 No.33(カラー)	5,800	2	11,600	2	11,600
	北海道の雪氷 No.34(モノクロ)	2,500	-		4	10,000
	北海道の雪氷 No.34(カラー)	6,600	-		2	13,200

2015 年度支部事業に対する受け入れ寄附金・協賛金等

	金 額	名 目	使途の目的 (支部事業名)	備考
(株)きのとや	100,000 円	助成金	雪氷災害調査	
(株)ほくやく	400,000 円	寄附金	雪氷災害調査	
雪氷ネットワーク	200,000 円	寄附金	雪氷災害調査	

資料 2

2016 年 5 月 11 日

北海道支部監査報告書

公益社団法人 日本雪氷学会
北海道支部長 苫米地 司 殿

公益社団法人 日本雪氷学会
北海道支部 監事 油山 菜明



2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの 2015 年度における北海道支部会計及び業務の監査について、次の通り報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、各種証憑類の確認等、会計業務の実態について確認した。
- (2) 業務監査について、事業報告書による報告を受けて、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

支部収支報告および証憑類を確認した結果、会計業務は適切に実施されていたことを認めます。

(2) 業務監査

支部活動報告およびその他報告資料を確認した結果、北海道支部の活動が適切に遂行されていたことを認めます。

資料 2

2016 年 5 月 11 日

北海道支部監査報告書

公益社団法人 日本雪氷学会

北海道支部長 苫米地 司 殿

公益社団法人 日本雪氷学会

北海道支部 監事

金田 守弘



2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの 2015 年度における北海道支部会計及び業務の監査について、次の通り報告する。

1. 監査の方法

- (1) 会計監査について、各種証憑類の確認等、会計業務の実態について確認した。
- (2) 業務監査について、事業報告書による報告を受けて、業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 会計監査

支部収支報告および証憑類を確認した結果、会計業務は適切に実施されていたことを認めます。

(2) 業務監査

支部活動報告およびその他報告資料を確認した結果、北海道支部の活動が適切に遂行されていたことを認めます。

資料3

公益社団法人日本雪氷学会北海道支部 2016 年度事業計画（案）

1. 支部総会の開催
日 時：2016 年 5 月 13 日（金）10:00-10:30
場 所：北海道大学 学術交流会館 第 1 会議室
主要議題：（1）2015 年度事業報告・収支決算
 （2）2016 年度事業計画案・収支予算案
 （3）2016 年度支部役員について
 （4）その他確認事項
2. 理事会の開催
第 1 回理事会
日 時：2016 年 5 月 13 日（金）10:30-11:30
場 所：北海道大学 学術交流会館 第 1 会議室
主要議題：（1）役割分担の確認
 （2）評議員・顧問の選出
・上記を含み年 3～4 回開催する。
3. 顧問・評議員会の開催
日 時：2016 年 5 月 13 日（金）11:30-12:00
場 所：北海道大学 学術交流会館 第 1 会議室
主要議題：今年度の雪氷学会北海道支部の活動予定
4. 研究発表会の開催
期 日：2016 年 5 月 13 日（金）13:00～17:00
 2016 年 5 月 14 日（土） 9:15～17:00
会 場：北海道大学 学術交流会館 第 1 会議室
5. 北海道雪氷賞の表彰および受賞論文の選考
・北海道における雪氷研究の活性化のために、「北海道の雪氷（第 35 号：2016）」での投稿論文または支部活動への貢献者を対象として表彰を行う。
・表彰選考委員会、選考基準、受賞者の決定、授章は、支部表彰規程にしたがう。
・2015 年度北海道雪氷賞の表彰は 2016 年 5 月、2016 年度受賞論文の選考は「北海道の雪氷」の発行後に実施する。
6. 機関誌「北海道の雪氷」35 号の刊行
・冊子体の有料化を継続する一方、電子媒体として支部ホームページ上に掲載する。
7. 地域講演会の開催
・テーマ：高齢者の冬の安全について（転倒、除雪による事故など）
・開催時期：11 月上旬を予定
・開催地域：上富良野町（会場未定）

資料3

8. 社会貢献事業

8-1 雪氷災害調査チームの活動

- ・雪崩講演会を開催する。
- ・研修会を開催する。
- ・プレシーズンミーティングを開催する。
- ・雪氷災害発生時に随時対応する。

8-2 雪氷教育等

- ・サイエンスパークへ参加（7月28日（木））する。

9. 支部ホームページの運営

- ・雪氷関連情報を提供する。
- ・会員向け情報を掲載する。
- ・既存ホームページ項目、およびコラムやエッセイ等を充実する。
- ・雪氷災害調査チームの活動を報告する。
- ・支部活動成果の紹介：支部関連雪氷イベントのポスター、リーフレットなど
- ・会員向け情報（総会や講演会、研究発表会など）を支部ホームページに掲載する毎に、メーリングリスト（hokkaido@seppyo.org）を使って会員にその旨通知するサービスを継続する。

10. 雪氷関連行事の共催・後援（研究成果普及事業）

- ・研究成果普及事業の一環として、他分野や他組織による雪氷関連行事を共催、または、後援する。

資料 4

科目	公益目的事業会計							法人会計	北海道/管理費	内部取引控除	合計
	公1	1調査/災害 北海道	23研究/北海道 北海道	32研修/北海道 北海道	44普及/雪氷教育 北海道	52褒章/北海道 北海道	64機関誌/北海道 北海道		K11 北海道		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
基本財産運用益											
501-501 基本財産受取利息	0							0			0
受取会費											0
515-01 正会員会費	0							0			0
515-02 特別会員会費	0							0			0
515-03 賛助会員会費	0							0			0
515-04 購読会員会費	0										0
事業収益											0
521-515 研究大会事業収益	0							0			0
521-516 研修会事業収益	0							0			0
521-517 出版事業収益	135,000						135,000	0			135,000
受取補助金等											0
525-534 科研費等補助金・助成金	0							0			0
受取負担金											0
531-538 中谷奨励賞選考委託	0							0			0
受取寄付金											0
535-540 受取寄付金	0							0			0
535-544 分科会費	0							0			0
535-545 財団の賛助会費	0							0			0
535-547 受取寄付金の振替額	500,000	500,000						0			500,000
雑収益											0
541-545 受取利息	0							0			0
経常収益計	635,000	500,000	0	0	0	0	135,000	0		0	635,000
(2) 経常費用											
事業費											
611-603 給与手当	0										0
611-605 臨時雇賃金	22,000		12,000	10,000							22,000
611-613 旅費交通費	328,500	300,000		27,500	1,000						328,500
611-615 通信運搬費	30,000	20,000					10,000				30,000
611-619 消耗什器備品費	0										0
611-621 消耗品費	123,000	100,000			23,000						123,000
611-623 修繕費	0										0
611-624 外注費	0										0
611-625 印刷製本費	138,000	10,000			2,000	36,000	90,000				138,000
611-626 広告宣伝費	0										0
611-627 会議費	2,400		2,400								2,400
611-628 会場費	90,500		68,000	22,500							90,500
611-629 光熱水料費	0										0
611-631 賃借料	0										0
611-633 保険料	20,000	20,000									20,000
611-635 諸謝金	50,000	50,000									50,000
611-637 租税公課	0										0
611-639 支払負担金	0										0
611-641 支払助成金	0										0
611-643 支払寄附金	0										0
611-645 委託費	0										0
611-646 手数料	0										0
611-647 諸会費	0										0
611-648 図書購入費	0										0
611-649 サイト運営費	0										0
611-650 雑費	0										0
621-651 未収金放棄損	0							0			0

資料 4

科目	公益目的事業会計							法人会計	北海道/管理費	内部取引控除	合計
	公1	1調査/災害	23研究/北海道	32研修/北海道	44普及/雪氷教育	52褒章/北海道	64機関誌/北海道		K11		
		北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道		北海道		
管理費											
621-603 給与手当								0			0
621-605 臨時雇賃金								0			0
621-609 福利厚生費								0			0
621-613 旅費交通費								42,000	42,000		42,000
621-615 通信運搬費								1,500	1,500		1,500
621-619 消耗什器備品費								0			0
621-621 消耗品費								0			0
621-623 修繕費								0			0
621-625 印刷製本費								0			0
621-627 会議費								0			0
621-628 会場費								20,500	20,500		20,500
621-629 光熱水料費								0			0
621-631 賃借料								0			0
621-632 リース料								0			0
621-633 保険料								0			0
621-635 諸謝金								0			0
621-637 租税公課								0			0
621-639 支払負担金								0			0
621-640 支払助成金								0			0
621-643 支払寄附金								0			0
621-645 委託費								0			0
621-646 手数料								1,000	1,000		1,000
621-647 諸会費								0			0
621-648 図書購入費								0			0
621-649 サイト運営費								0			0
621-650 雑費								0			0
621-651 未収金放棄損								0			0
経常費用計	804,400	500,000	82,400	60,000	26,000	36,000	100,000	65,000	65,000	0	869,400
評価損益等調整前当期経常増減額	-169,400	0	-82,400	-60,000	-26,000	-36,000	35,000	-65,000	-65,000	0	-234,400
基本財産評価損益等	0							0			0
特定資産評価損益等	0							0			0
投資有価証券評価損益等	0							0			0
評価損益等計	0							0		0	0
当期経常増減額	-169,400	0	-82,400	-60,000	-26,000	-36,000	35,000	-65,000	-65,000	0	-234,400
2. 経常外増減の部											0
(1) 経常外収益											0
期末棚卸残高	0							0		0	0
経常外収益計	0							0		0	0
(2) 経常外費用											0
期首棚卸残高	0							0		0	0
経常外費用計	0							0		0	0
当期経常外増減額	0							0		0	0
他会計振替額	0							0		0	0
当期一般正味財産増減額	-169,400							-65,000		0	-234,400
II. 指定正味財産増減の部											0
受取寄付金											0
雪氷災害調査活動寄付金	500,000	500,000						0		0	500,000
一般正味財産からの振替	0							0		0	0
特定資産受取利息											0
井上基金利息	0							0		0	0
特定資産口座普通預金利息	0							0		0	0
有価証券当年度償却額	0							0		0	0
一般正味財産への振替額	500,000	500,000						0		0	500,000
当期指定正味財産増減額	0	0						0		0	0
当期指定正味財産増減額	0	0						0		0	0

資料5

2016年度 公益社団法人 日本雪氷学会北海道支部 役員(案)

*2013年度選出の再任候補理事

No.	職名		氏 名	所 属	年 数	
1	理事	支部長	苦米地 司	北海道科学大学 学長	2	
2	理事	副支部長	石井 吉之	北海道大学低温科学研究所	3	
3	理事	〃	伊東 敏幸	北海道科学大学工学部建築学科	2	
4	理事	庶務担当	武知 洋太	(国研)土木研究所 寒地土木研究所	3	
5	理事	〃	大廣 智則	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道	2	
6	理事	会計担当	阿部 正明	(一社)北海道開発技術センター	2	
7	理事	〃	岩間 大舗	北海道科学大学	1	候補
8	理事	広報担当 HP・ML	西田 浩平	株式会社雪研スノーイーターズ	2	
9	理事	事業担当 北海道の雪	白川 龍生	北見工業大学社会環境工学科	2	
10	理事	〃	天見 正和	(一社)北海道開発技術センター	1	候補
11	理事	事業担当 研究発表会	伊藤 達人	北海道電力株式会社総合研究所	2	
12	理事	〃	飯塚 芳徳	北海道大学低温科学研究所	1	候補
13	理事	事業担当 地域講演会	亀田 貴雄	北見工業大学社会環境工学科	2	
14	理事	〃	堤 拓哉	(地独)北海道立総合研究機構 建築研究本部北方建築総合研究所	3	
15	理事	社会貢献担 雪氷災害調	尾関 俊浩	北海道教育大学札幌校	*	4
16	理事	社会貢献担 当雪氷教育	渡邊 祥史	札幌総合情報センター株式会社	3	
17	理事	〃	大宮 哲	(国研)土木研究所 寒地土木研究所	2	
	監事		植松 孝彦	株式会社雪研スノーイーターズ	1	候補
	監事		金田 安弘	(一社)北海道開発技術センター	2	
1	理事	会計担当	金村 直俊	札幌総合情報センター株式会社		退任
2	理事	広報担当	的場 澄人	北海道大学低温科学研究所		退任
3	理事	広報担当 ニュースレター	金森 晶作	公立はこだて未来大学		退任
4	理事	事業担当	川島 由載	株式会社ドーコン		退任
5	理事	〃	細川 和彦	北海道科学大学 空間創造学部 都市環境学科		退任
6	理事	〃	大鐘 卓哉	小樽市総合博物館		退任
7	理事	〃	荒川 逸人	野外科学株式会社		退任
8	監事		油川 英明	NPO法人雪氷ネットワーク		退任

資料6

2016年2月17日
亀田貴雄

『北海道の雪氷』の英語表記に関する検討結果報告

1. 経緯

2016年2月9日に日本雪氷学会北海道支部の副支部長の石井吉之氏から「北海道支部理事 ML」へ『北海道の雪氷』の英語表記の問い合わせがあった。亀田は思いついた原案を北見工業大学の Jennifer Claro 氏に問い合わせたところ、すぐに返事があり、適切な英語表記の提案を受けた。石井氏に状況を報告したところ、「さらに検討してほしい」とのことだったので、Jennifer Claro 氏とともにさらに検討した。

Jennifer Claro 氏は北見工業大学講師で、日本での英語教育が専門のカナダ人女性。北見工業大学では口語英語を担当している。これまでも新版雪氷辞典の英語表記 (Japanese Dictionary of Snow and Ice, 2nd edition) などについて、協力してもらっている。

2. 可能性のある英語表記として、亀田と Jennifer が検討した名称 (11 種)

Snow and Ice Research in Hokkaido
Snow and Ice Studies in Hokkaido
Japanese Journal of Snow and Ice in Hokkaido
Hokkaido Journal of Snow and Ice Studies
Annual Report on Snow and Ice Research in Hokkaido
Annual Report on Snow and Ice Studies in Hokkaido
Progress on Snow and Ice Research in Hokkaido
Progress on Snow and Ice Studies in Hokkaido
Progress in Snow and Ice Research in Hokkaido
Progress in Snow and Ice Studies in Hokkaido
Hokkaido no seppyo

3. 検討経緯

『北海道の雪氷』の特徴として、以下の3点を考慮した。

- 1) 『北海道の雪氷』は北海道支部が刊行する論文誌ではなく、機関誌 (複合誌) という位置付け
- 2) 論文は掲載されているが、最大4ページのページ数制限があること
- 3) 論文だけではなく、北海道支部の報告も掲載されていること

上記の特徴に関して、以下のコメントが Jennifer よりあった。

- ・論文誌ではないので、**Journal** は使わないほうが良い。
- ・毎年1回刊行しているのであれば、**Annual report** が良い。
- ・論文が多数掲載されているので、**Studies** が良い。
- ・**Hokkaido no Seppyo** は、日本語がわかる人にしか意味がわからないので良くない。

4. 結論

Jennifer と相談した結果、以下の雑誌名が適切となった。

Annual Report on Snow and Ice Studies in Hokkaido

(参考)

『北海道の雪氷』に英文 abstract を掲載することについての提案

英文の雑誌名を決めるのであれば、希望者は英文 abstract も掲載できるようにしたら良い。本来であれば、投稿者全員からということが基本だとは思いますが、「英語はややこしい」と思う人も多いと思うので、希望者のみで始めると良い。

資料 7

雪氷学会北海道支部理事会資料 ニュースレターありかたについて

担当理事 金森晶作（公立はこだて未来大学）

1. 提案

ニュースレターの廃止を念頭に、そのありかたについてご検討いただきたい。

2. 現在のニュースレター発行概要

※別添資料参照（平成 24 年 10 月 引き継ぎ資料）

○発行目的

送付を希望する支部会員に対して支部の活動を伝えることが目的と推察される。発刊されるに至った経緯は担当理事は把握していない。

○近年の発行実績

No.51(2015.05.01) | 支部研究発表会、総会等のお知らせ/北海道雪氷賞結果

No.50(2015.04.03) | 支部研究発表会、総会等のお知らせ/北海道雪氷賞選考

No.49(2015.01.05) | 地域講演会のお知らせ/「北海道の雪氷」発刊

No.48(2014.05.02) | 支部研究発表会、総会等のお知らせ/北海道雪氷賞結果

No.47(2014.04.08) | 支部研究発表会、総会等のお知らせ/北海道雪氷賞選考

○現在の掲載、送付先

- ・支部ホームページ
- ・支部会員用メーリングリスト（Hokkaido@seppyo.org）
- ・個別のメール配信先 21 件（送付実績不明）
- ・希望者への郵送（個人 13 件、購読会員 3 件、賛助会員 1 件；引き継ぎリストによる）
※ただし 2013 年度以降、郵送費用の支出がないため郵送実績はないと思われる

○おおよその費用（仮に郵送する場合；1 年あたり）

- ・送料 4,182 円（82 円×17 件×3 回）
- ・印刷費 1,530 円（10 円×3 ページ×3 回）
- ・その他消耗品費 500 円（ラベル紙、封筒、印刷用紙等）
- ・担当理事の作業時間 3 時間×3 回×1 名（ニュースレターの編集、校正、印刷、発送）

3. あり方についての論点 | 廃止を考慮する理由

現在ニュースレターに盛り込まれている内容は、ニュースレターに先んじて各担当理事より支部メーリングリストに投稿されている。また、随時支部ホームページにも掲載されている。別途、ニュースレターの体裁で発行する必然性はない。

また、メール購読やホームページ閲覧が難しいと思われる会員については、過去 3 年間郵送の実績がなく、このことにより特段の問題は生じていないと思われる。なお、仮に支部総会の案内などを全支部会員に周知する必要がある場合は、希望者に配信するニュースレターではなく、別の手段を講じる必要がある。